

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会「第8回社会教育部会」議事録

日時 平成30年4月24日(火) 午後7:00～

場所 麻績村地域交流センター 2F 第2研修室

参加者 ・社会教育委員兼公民館運営審議委員会委員長 湯地監興 委員
・社会教育委員兼公民館運営審議委員会副委員長 内山修治 委員
・文化財保護委員会会長 飯森忠幸 委員
・文化財保護委員会副会長 宮沢 強 委員
・体育協会理事長(教育長) 飯森 力 委員
・スポーツ推進委員 柳原直穂美 委員 (欠席)
・スポーツ推進委員 清水 深 委員
・公民館サポート委員 宮下 朗 委員
・公民館サポート委員 小松小百合 委員 (欠席)
・おみ図書館職員代表 新海知子 委員
・公民館長 塚原明水 委員
・公民館主事 飯森誠一 委員 (事務局)
・公民館体育主事 塩家正和 委員 (事務局)

事務局：皆様こんばんは。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。会議に先立ちまして、柳原委員と小松委員が欠席でございますのでご了承ください。それではこれから第8回社会教育部会を始めさせていただきますと思います。最初に部会長挨拶をお願いします。

部会長：皆さんこんばんは。皆様お仕事終わりのお疲れのところ、また夜のお忙しい時間に第8回社会教育部会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。早いもので第8回と言うことですが、本日は公民館関係の続きから検討に入りたいと思いますので、皆様方の活発なご意見をいただければと思いますのでよろしく願いいたします。

事務局：それでは協議事項に入らせていただきます。進行は部会長をお願いいたします。

部会長：協議事項の一つ目会議録の確認について事務局お願いいたします。

事務局：書記からご説明させていただきます。前回の議事録を皆様のお手元に送付をさせていただきました。修正点等がありましたらこの場でお願いしたいと思います。部会の会議録につきましては第6回目まで村ホームページで公開済みです、よろしく願いいたします。

委員：3ページで著作権付という言葉が何回か出てきているのですが、これは著作権の許諾を得ているという意味で、正確には上映権つきDVDまたは上映権付メディアと修正をお願いいたします。申し訳ありません。

部会長：会議録につきまして何かご発言はございますか。それでは課題の検討に入りたいと思います。本日から公民館関係の課題について検討を始めたいと思います。課題リストには 8 つの課題が出ておりますので番頭順に進めていきたいと思っております。まず課題①分館の数について人口が減ってきている現在、これまでと同じ分館数でよいのだろうか、各地区において人が少なくなっているため役員も大変というような内容ですが、分館の数についてご意見ありましたらよろしくお願いたします。

事務局：分館数については現在麻績村には 24 分館あります。中には分館活動が出来なくなっている地区もございます。野間桑関地区ですが、平成 29 年から分館活動が出来ないということで、館報の配布のみしていただいておりますが、分館活動はしていない状況です。私の個人的なイメージですが分館主事の方は比較的若い方が多いような気がしておりましたが、先日分館長主事会を開催した時に高齢の方が、受付で 2 回目が回ってきてしまったというような話をしておりました。地区によっては役員の交代なども大変なようです。

部会長：分館の数が多いというような話は、分館長主事会などで出るのですか。

事務局：私が担当してからはそういう話は出ていないです、引継ぎにもそういった話はなかったため過去にも出ていないように思います。体育祭とか運動会という様な目先の話題は出ますが、分館の統合といったような話題にはなりませんね。

部会長：24 分館はそもそも多いのでしょうか。また多い場合の不具合はあるのでしょうか。

事務局：今のところは機能しておりますけれども、野間桑関のように活動が出来ない分館が出始めています。西麻績分館のように 3 地区が一緒になっているところもありますが、区の数とほとんど同じ数があり、大きく困っていることはないように思います。10 年先位を見通した時に人口減少により活動が困難な地区が多くなっていくことは考えられます。また本町地区のように若者定住住宅の建設をいたしましたので、飛躍的に人口が増えている地区もございますので、分館ごとの人口バランスも大きく違ってくる可能性があります。

委員：上井堀では行政区は丸山と上井堀で 2 名出ているのですが、内部的にはほとんど一つの区のように動いています。行政区の活動は一緒にやっておりますが、分館の活動は上井堀と丸山でそれぞれ分かれてやっていますね。行事や慰労会などは人の集まりも悪いので最近一緒にやっているようなことも聞きますが、他の地区ではどうですかね。

委員：明治町は一つですね。

委員：基本的には地元から統合という様な話が無ければそれでいいような気がします。

委員：分館独自の活動というと今は何がありますか。

事務局：今は村民運動会くらいでしょうか。

委員：今はかなり活動が少なくなりましたね。昔は 1 年中何かしらの行事をして卓球から始まって野球、駅伝など色々なことがありました。役員が大変だという話は聞きますが、昔に比べると少ないと思いますが、今は今で大変なのだと思います。

委員：区長や分館長なども年齢がかなり下がって来ていて、仕事をしながら区長や分館長をしている方も多いですね。

委員：私の知る限りですが、分館の成り立ちとしては公民館が出来たのでその分館が出来ました。なぜ区で対応できなかったのかということと考えますと、行政に頼りきりになると一つの方向性しか出てこなくなってしまい、変な方向へ行ってしまう可能性もありますので、それをけん制する意味で公民館活動が始まったという認識でおります。基本的にそういったことを踏まえながら多いとか少ないとか考えていかないといけないと思いますね。また分館が多い場合、少ない場合などメリットデメリットを考えて話をしていかないと、何を基準にして進めていけばいいのかわからないと思います。どこかの地区から強く要望が出てきているということならここで検討する必要はあると思いますが。

部会長：私も同感です。24 分館が多いのかどうかということも良いのか悪いのかわかりませんが、そもそも現場から声が出ていないならそれで良いのではないかとこのように思います。

委員：確かに野間桑関ではすでに公民館活動が出来ないということになっているというお話しでしたので、そういう地区の手立ては考えていかななくてはいけないと思います。

委員：公民館行事に対して単分館では人数が集められなくなって、不参加になってきている地区が増えてきているというのはひとつ問題としてあると思います。分館の数というよりは行事に対しての運営方法を考えていく必要はあると思います。体育祭では 1 区から 9 区までのいくつかの分館をまとめた形で運営していますが、運動会も今後続けていくとなると、区の体制での運営方法などを考えていけばいいのではないかとと思いますが。単分館で参加できなくなってきているというのが問題だと思っています。分館の数ありきということではなく、行事の運営方法で解決していく必要はあると思います。

部会長：西麻績分館は 3 地区が集まっていますよね、これはその地区で話し合いをしてまとめたということですよ。

委員：小さな分館の数だけ分館があったということだと思います。根尾、北山、坊平にもそれぞれ分館がありますよね。

委員：西麻績がまとまった時の話はよく知りませんが、役員などが大変だということもまとまった一つの要因だと思います。確かに小さな地区で毎年区長や分館長

分館主事を出していたら、大変だと思います。西麻績では 3 つの区がまとまっておりますので、区長が 3 人出ます。このルールを決めて区長が分館長や分館主事、会計などを兼務しております。改めて考えると合理的なやり方だったのかもかもしれませんね。

部会長：なるほど、西麻績では独自に話し合いをして分館をまとめたのですね。この問題は地区同士が話し合いで統合するなどして、自然に減っていくような気がしますね。

委員：区と分館が同じという考え方にしていくということですかね。

委員：西麻績分館と上井堀区は逆のパターンということですよ。西麻績は分館が 1 つで区が 3 つ、上井堀区と丸山区は内部的には一つの区として動いているけれども、分館はそれぞれ活動しているということですよ。公民館活動というのは自発的な地区の活動という意味合いが強いですよ。

委員：そうですね、上井堀では分館長は区の役員に入っていないですね。やはり区と分館とは成り立ちが違うということですよ。

委員：例えば明治町と中町が自主的に一つの分館になりたいと申請すればなれるのでしょうか。

事務局：区は区としてそれぞれあって、分館が一緒になるということですよ。西麻績が今そのような形なので、問題はないように思いますが。

部会長：分館同士で話し合いをしてルールを決めれば統合することは可能ということですね。これはこっちから統合しなさいということは言えないと思いますので、分館の考え方によるような気がしますね。

委員：ただし 10 年先を考えたときに組織としてはまあ今の話で、良いような気がしますが、施設的な部分が問題になってくることは確かです。中には新しい分館もありますが、老朽化してきている分館も増えています。分館修理の補助金などもありますが、分館数が多ければ多だけ修繕費など今後施設整備に膨大なお金がかかっていくことは考えられますね。人口が減っていくのに修繕費が伸びていくという現象がおきてくると思います。

委員：公民館によっては耐震化という問題も出てきますね。

委員：北山の公民館は今でも活用しているのですか。

委員：使うときもあります。区の打ち合わせなどに活用しますね。根尾公民館も活用します。坊平だけは昔の公民館が朽ちてしまっているので、西麻績公民館を使っていますね。確かに後々の施設的なことを考えると、分館は統合していった方がいいような気がしますね。

委員：上井堀でも山寺と半在家に古い公民館があり、横屋公民館は古い公民館を潰して今の公民館が建設されました。丸山はお堂を改修して公民館にしています。上井堀の公民館では耐震化の問題が出ていて、耐震診断を行いその結果次第で

今後の検討をすることになっています。

委員：地区の公民館も災害時の避難所になるので、耐震化などは重要ですよね。

委員：そうですね。丸山地区は上の上井堀公民館に避難するよりも、昔の上井堀のアクアセンターに避難する方が早いなんて話も出たりしますね。話はそれでしたが、分館の数については、統合しなさいとこちらから決めつけるということではなく、分館から要望がでてきたときに対応していくということでしょうか。

委員：この課題が出てきた要因の一つとして、分館活動をどれだけやっているかという問題があると思います。下井堀の話ですが、昔は色々な分館活動をしておりましたが、いまは体育祭と運動会くらいしかやっていない状況があります。本館と分館の在り方などを考えていく中で、進めていかないといけないと思います。分館を統合しなさいとはこちらから言えることはありませんので、地元から話が出てくるということになると思います。皆さんの地区では分館としての事業は何かしているのでしょうか。中には分館の会計がなくて区の会計と同じところもありますよね。下井堀は分館会計と区の会計は分かれていますね。

委員：中町は分館会計と区会計と一緒にですね。

部会長：矢倉も同じですね。

委員：上井堀は全く別です。分館費を集めますね。

委員：明治町は分館で旅行などを企画していますので、区から分館への補助をもらっていますね。

委員：それが本当の分館活動ですね。

部会長：分館数については、結論としてはまとめるに難しいですが、こちらから統合してくださいとは言えませんので、地区からの要望が出てきたときに応じていくということでしょうか。

全員：了承。

部会長：それでは課題②本館と分館との連携について検討に入ります。各分館で行っている行事について、お互いの分館同士で認知度が低い。もっと本館と分館が連携をして分館での取り組みを村内に周知させていく必要があるのではないかとありますが、本館というのは中央公民館ということですか。

事務局：そうです。

委員：分館の単独行事を増やすということになると、分館の役員のやり手がいなくなってしまうと思います。体育祭と運動会で大変だという中で、分館で何か行事に取り組むということであるなら非常に難しいことだと思います。市野川地区などは運動会などやっていますね。以前から自主的にやっている分館であれば大切にしていける必要があると思いますが。

委員：区の行事なのか分館の行事なのか分りにくい部分もありますよね。

- 委員：公民館活動には村から補助金が出ていませんでしたか。
- 事務局：分館活動補助はございますが、全分館へ定額と戸数割の補助金があり、事業費割の様な補助金ではないので、例えば分館で事業をやって10万円かかったからその事業費に対して何割かの補助金を支払うというものではないです。
- 委員：なるほど。活動をしていなくてももらえるのですね。
- 委員：地区の活動を館報に掲載してこんなことうちの分館ではやっているんだよとお知らせをしていく場合でも、分館で記事を書いてくれるのか、編集委員が取材に行くのかでも違ってきますよね。
- 事務局：館報編集委員会でも地区の分館活動を取材にいったらどうだろうという話が出ております。ただ明治町の旅行の様な分館独自の活動を本館がすべて把握しているわけではないので、館報を活用して独自の分館活動を村内に知らせていくということは必要なのかなと思います。記事を見てうちの分館でも取り組んでみようということになるとも限りませんので。
- 委員：分館長主事会などで情報収集をするのも良いですね。明治町も「ていしゃば」という新聞を年2回発行していますが分館の活動ですね。そういったものも館報で知らせていただければいいと思います。
- 部会長：分館活動のお知らせということであれば、一番は館報を活用してお知らせしていくということになると思いますので、課題②につきましては分館長主事会などで情報収集を行いながら、各分館の独自の活動を館報でお知らせしていくことでのよろしいでしょうか。
- 全員：了承。
- 部会長：続いて課題③館報編集委員について検討を進めたいと思いますが、事務局から説明をお願いいたします。
- 事務局：課題③、④についてご説明させていただきます。課題リストに課題として載せていたのですが、現在の編集委員長が30年の長きにわたり、館報の発行をお手伝いしていただいたのですが、この3月末で任期の区切れもありまして、退任されるということになりました。公民館主事になって1年目ですが、仕事をすする中で危惧していたことで課題にも載せさせていただいたのですが、そういう運びとなりました。3月末に新しい委員を探しまして、3名の方に新たに編集委員になっていただくことができ、5名の編集委員会で4月をスタートしました。横路さんには館報でいうと360号分を作っていただき、校正や割り付け、添削など色々な部分で担っていただいていた部分があります。経験が豊富でしたので、新しい委員がすぐに代わりができるかということそれは非常にむずかしいと思っております。現在は5名ですが、目標8名まで増やしていきたいと考えており、一人で多くを担っていただいていたので、その部分を今後は8人で担っていきたくて思っております。長く経験されて、ノウハウのある方が退任

されるということはいつか必ず来ることですので、個人的にはもう少しやっていただきたかったという思いはあるのですが、新たに 3 名の委員を迎えましたので、前を向いてやっていくしかないと思っております。当面は参考書や研修会に参加する中で、スキルアップを図っていくしかないのかなと思っております。課題にたした時の趣旨としては、ベテランが抜けてしまったら館報の発行が難しくなるという組織では困るということで課題に出させていただきましたので、今後は編集委員会としても新陳代謝をしながら伝統ある館報を作っていくような組織にしていく必要があります。公民館長も公民館主事も人事異動に伴い変わっていつてしまいますので、編集委員会としては地に足をつけてしっかりと館報を作り続けていけるようにしていきたいと考えております。また課題④についても、公民館主事と編集委員長が主に取材や最終校正などしていた経緯があるのですが、新体制ではその辺も調整して本来の編集委員の形に戻していきたいと思っております。個人的には残念な思いは強いですが、こうなってしまった以上館報編集委員会として頑張っていくほかありませんので、この課題③、④につきましては課題リストから削除させていただきたいと思いたすがいかがでしょうか。

部会長：ありがとうございます。何かご意見ありますでしょうか。

委員：館報は麻績村の歴史の記録でもあり、素晴らしいものであると思います。できたら、今のまま継続していき、データ化していくなど記録として残していくことが必要であると思います。新しい編集委員の方に新しいやり方を見つけてほしいと思います。写真の撮影や記事を集めてくることは大変なことなので、みんなで支え合っていければ良いと思います。課題は 300 号から 600 号までの縮小版がないことです。村の職員も館報を見ながら過去の出来事や人事について調べるのに参考にしています。

部会長：館報については編集委員の方々にいろいろと考えていただく。昨年度までは偏りがあったが、今年度から編集を増やして、その中で毎月発行するのかどうかについて検討していくということで、部会としては、館報については編集委員の方にお任せするという事によろしいでしょうか。部会としましては課題③、④に関しましては検討せず、課題リストから抹消するという事によろしいでしょうか。

委員：③、④は削除するということですね。

部会長：③、④については削除ということで、ここでは検討しないこととします。続いて課題⑤公民館講座についてです。現状課題としまして、新しい公民館講座の模索は必要である。プロ棋士を招いた将棋講座や若者を講師にしたスマホ講座、麻績についてみんなで学ぶ麻績検定など。いかに新しいものを取り入れていくか。また村民のニーズとの整合性を整えることも大きな課題である。公民館講

座について何かありますでしょうか。

委員：講師の謝金を払えば、講座を増やすことはいくらでもできると思います。信州大学や松本大学でも出前講座を行っています。問題はお客さんがどれだけいるか、村民のニーズがどれだけあるか。麻績学級を行っているが、いかに皆さんが飛びついてくれるかということが一番大事です。人口が減少してきている今を考えれば、麻績学級の場合は30人参加していただければ良いと考えています。例えば社会体育の講座でいうとスラックラインやロッククライミングなど話題の競技を取り入れています、我々がアンテナを高くして、村民の要望をいかにくみ取っていくか、そこが腕の見せ所かなと思います。図書館ではどのようにお考えですか。

委員：講座のアイディアはいくつか考えても実際どれだけの人来ていただけるかということになると、アイディアから実際の企画に結びつくのは五つのうち一つとかになります。その一つにかなり力を注いでも蓋を開けてみるとなかなか人が集まらなかったということもあります。年齢層や性別等、どこに焦点を置くかということも見極めが大変だという実感はあります。

委員：もう一つ難しいのは、観月苑、社会福祉協議会、公民館でそれぞれで企画を立てていることです。いろいろなところが頑張ってくれていますが、その影響で各企画の参加者が減っていくのかもしれない。

委員：これだけ過疎化していて人が減ってきた時点で、人数を目標に置くとかなりきついもので、人数を目標にするのではなく、来てくれた人が満足してくれるようなイベントで良いのではないかと思います。あまり人数にとらわれてしまうと、これだけの人数しかいないので難しいと思います。とにかく人を集めようみたいな感じじゃなく、参加してくれた人に満足してもらわないといけないと思います。

部会長：人数ありきじゃないということですが、今もそういうお考えでしょうか。先ほど30人いれば十分というようなお話もありましたが。

委員：私個人としては麻績村の人口と麻績学級の開催時間などを考えれば、30人いれば十分ではないかと考えています。

部会長：今毎回30人は来てくれますか。

委員：大体平均して30人は来てくださっています。

委員：麻績学級を見ているとバスで出かける研修はすぐに定員に達しますよね。村民の皆さんはよく見ていると思います。お得なことを行えば人は来てくれますね。ただし経費は大きくなっていってしまいますね。

部会長：住民の皆さんは公民館活動をチェックしているということですね。

委員：話題は変わりますが、プロ棋士をお呼びするにはどれくらいの講師料がかかるのでしょうか。

委員：実際には結構高いようです。公民館と商工会で行っている新春公演は 30 万円程度かかります。

委員：確かに公民館主事の研修会に行っても、宮澤委員がおっしゃったようにお得というワードが出ましたが、「安い」「たのしい」「おいしい」というキーワードがないとお客が来ないという話が出ます。ですが今私の中ではとしたのは宮下委員がおっしゃったように、満足度というか、来てもらった人にどれだけ満足して帰っていただけたかということは、情報を取ってはいません。アンケートなのか、やり方は考えなければなりません、来た方がどれだけ満足できたか、良い講座だったかという部分をもう少しフィードバックして、こちらで収集しなければいけないのかなと思います。幸福度と言いますか、貧しいけれども幸せではないですが、人が集まらなくても満足度が高いというような講座が組めると良いのかなと、そのへんが鍵になるのかなと思いました。

委員：満足してその方がリピーターになってくれると良いですね。

委員：新しいものをやって、新しい人を呼び込むということがそこで終わってしまい次に続かないのであれば、満足度が高くてリピーターをとれるような企画ができれば良いのかもしれません。

部会長：今も皆さんそういう考えでやっておられるんですね。

委員：やっていますが、結果は取っていないです。もちろん、来ていただいた方に楽しんでもらいたい、満足してもらいたいという気持ちで講座を行っています。

部会長：すでにこのことについてはいろいろ考えて着手しているのですね。ただ先ほど言われたみたいに、人数ありきではなく満足度という物差しで一度見直していく。リピート率等も考えていければ良いかと思います。アンケートなどを活用して満足度を調べていく必要はありそうですね。

委員：年間 10 回いろいろな企画で麻績学級を行っています、その中の宮下健司先生を講師にお招きしている歴史講座の時には、普段見かけない方が、毎回参加されたりしています。講師の宮下健司先生のファンという方もいると思います。そういう企画を継続していく必要があるのかと思います。

委員：この前「麻績学級」＝「高齢者」というイメージがあるというような話がありましたが、負担は多くなってしまいますが、同じ内容で平日の昼間と夜、ないし休日に行くことはできますか。聞きたい講座があっても平日の昼間ということで断念してしまう方もいると思います。夜ならでられるのかどうかもわかりませんが。

委員：確かに平日の昼間午後 2 時から開催して若い人が来ないと言っている、それは来ないと思います。無理がありますよね。

部会長：後の課題⑥にも出てきますが、講座の内容を撮影して DVD にして見られるような環境を整えるのが良いかもしれません。

委員：昨年も夜開催してみましたが、3人だけの参加でした。一つ失敗したと感じたのは麻績学級の予定表があるのですが、それを新聞の折り込みに入れていなくて、来た人にだけ配りました。全戸に配ってほしいとの要望がありましたので、今年は新聞の折り込みに入れようと思っています。研修旅行ですが、昨年度は研修旅行だけに参加し、その後の麻績学級に参加されない方が多くいらっしやっただので、今年は時期をずらそうと考えています。

委員：麻績学級は登録制なのですか。

委員：いえ、違います。参加したら出席簿に名前を入れてあります。今までに一回でも参加していれば名簿に名前が載っています。

委員：私一度だけ麻績学級に参加しましたが、そのとき名前のリストがあったので、「これは登録していないと参加できないのですか？」と聞いた覚えがあります。「いえ、大丈夫です、どうぞ」と言われてそのまま中に通していただきました。それと勤めている人間としては、良い講座があったときにも仕事があるので、平日の昼間というのが足かせになってしまうという部分はあると思います。

委員：皆勤賞、精勤賞を出しますと書いてあるのでどうしても出席簿が必要になってきてしまいます。

委員：シリーズものだと「学校」というイメージが強くなりますね。

委員：我々もシリーズというのは娯楽的なもの、歴史的なもの、健康に関すること、趣味のことという風にジャンルを決めて入れているつもりです。例えば運動であれば、社協の方を講師に迎えて「ボッチャ」を行ったり、趣味で言えば私が行っている木工であったり、村内の方に木彫りの仏像の関係をやってもらったり。公民館活動の中の麻績学級として行っていますが、他に公民館として講座を組んでいかななくてはいけないのかとは思っています。

部会長：麻績学級以外の公民館講座ということですか。

委員：そうですね。

委員：先ほどの話にでたように、人数を目標にするということではなく、満足度が高ければいいということなので、夜の講座があっても良いと思いますね。事務局側としての心配は、やはり講師を呼んでふたを開けてみたら、4、5人ということでは講師に申しわけないという思いもありますので、その辺はしっかりと講師にご理解いただければいいような気がします。また継続性のある講座も続けていく必要があると思います。昨年公民館講座でバレトン教室を3回にわたり開催して、人気があり公民館クラブとしても立ち上がり活動していますので、こういった講座を大切にしていかななくてはいけないと思います。

委員：企画は実際にやってみないことにはわからないという部分がとても難しいですね。

部会長：課題⑤公民館の講座についてまとめますと、もうすでにいろいろな手立てをし

ているということですので、人数の多少にこだわるよりも、満足度の高さを求めていくと、今現在は講座の振り返りというか、アンケート調査のようなことはしていないということですので、今後参加者の満足度をリサーチしていくかを考えていく必要があるということでもよろしいでしょうか。

全 員：了承

部 会 長：課題⑤にも関連はしていますが、課題⑥麻績学級について麻績学級の開催時間が現在は午後 2 時から 4 時の日程で行っているが、働いている世代には参加できない時間帯である。ということですが、麻績学級も夜の部がある回もあるということですが、基本的な時間については今の時間でということですよ。

委 員：講師の都合がつけば夜の時間帯でも出来ないことはないと思います。

委 員：公民館、社会福祉協議会、観月苑など様々なところで色々な企画を実施していますが、横の連携といいますか、年間のイベントの調整などはしているのでしょうか。

委 員：横の連携はしていませんね。観月苑などは営業で行っていますので、どんどん企画をして進めていると思います。ただ似たような企画もお互いにあると思いますので、その辺の調整をしていけたらいいかもしれませんね。

委 員：企画内容が似ていて対象者まで同じとなってくることがあれば、お任せする部分はお任せしていくということも調整できると良いのかもしれないですね。

教 育 長：直接的に話し合いがあるわけではありませんが、2月から3月頃に全村的なイベントの調査はありますので、その中で他団体のイベント内容を把握しておく必要はありますね。

部 会 長：観月苑は私も関係しているのでわかるのですが、どこかと調整している感じではないですね。独自でイベントを組み立てている感じです。

教 育 長：観月苑については、営業でやっていますので独自でやっていると思いますね。

部 会 長：課題⑥麻績学級についても課題⑤と同じで人数の多少にこだわるよりも、満足度の高さを求めていく必要はありますね。麻績学級を撮影し、DVD化したものを貸し出してみてもどうだろうかということは可能ですか。

委 員：撮影して DVD にすることはできますか。

委 員：できます。ただ撮影する機材がないことにはどうしようもないです。

委 員：公民館のカメラで動画を撮影できますよね。

委 員：できると思います。

委 員：DVD を図書館において、貸し出しの需要はありそうですか。

委 員：今、借りる人がいる、いないではなく、5年後に「あの時こういうことがあったな」と振り返る材料として蓄積していくのが図書館の役目であると思っています。ですから目先の利用に限らず、もっと長期的に見れば、何でもお引き受けしますというのが図書館の考えです。

- 委員：宮下健司先生の講演はぜひ映像化して保存していきたいと思います。麻績の歴史を学んだり、村史を作っていくときにもとても大事になってくると思います。村の文化財保護委員にも先生の話をお願いしたいです。講演の際に宮下先生が資料をくださるのですが、映像化されていないので手元の資料しか残らず残念に思います。
- 委員：例えば、小学校の音楽会は業者の方が入って、記録してDVD化して販売しています。業者が入らないで、代わりに誰かがそれを担っていけば、そんなにハードルが高いことではないと思います。その音楽会のDVDはほとんどの保護者の方が購入されていますので、身近な記録媒体となっています。
- 委員：昔は結構撮ったのですが、今は著作権、放映権の問題で講演等を撮影してはいけないということが増えています。宮下先生はそういうことはないかもしれませんが、普通の講師はだめだというケースが多いですね。
- 委員：例えば、宮下先生の場合は、麻績の公民館活動に関しては良いとか、そのあたりは交渉してご協力をいただければありがたいですね。
- 委員：花屋や麻績宿についてもいろいろと記録を残していかなければいけませんね。大事にしていきたいです。
- 教育長：一点お願いします。このことに関しては今、村の教育委員会で元気作り支援金を利用して、村の歴史的な部分を映像化で残していく計画をあげています。補助金がつけばなんとかなると思います。できれば麻績学級の件に関してもその中で一緒にやれば行ければと思います。麻績村の文化財で行う部分と重なるところがありますのでお願いします。
- 部会長：補助金が付いたのですか。
- 教育長：そこはまだわかりません。
- 部会長：予算が付くと機材が購入できるのですか。
- 教育長：制作費が補助の中に入ります。
- 部会長：プロに撮影してもらえるのでしょうか。
- 教育長：方法はまだわかりませんが、いずれにせよ後世に残していかなければならないものですし、視察に来た方に説明できる人がいないとなったときにそれらを活用してもらえるように考えています。
- 部会長：貸し出しの部分も関係してくると思いますが、記録を残すことは良いことだと思います。では課題⑥麻績学級については以上になります。時間が経っていますので今日はここまでにしたいと思います。
- 事務局：今回は社会体育の関係に入りますので、その中で公民館の課題と重複した部分についてご検討いただければと思います。
- 教育長：昨年から村民運動会について小学校にお願いして進めている部分があるので、その説明をお願いします。

事務局：村民運動会については分館長の皆さんに苦勞していただいております、リレーやその他の競技に参加する子どもを集めるのが大変で、うちの地区には子どもがいないとか、当日どの子どもが来ているかわからないといった話が出てきました。対応としまして昨年度から子どもたちが活躍する種目については、小学校にお願いをして、分館長の手を離れて、小学校でチーム編成をお願いしています。ただどうしても当日急に來ることができないといったこともあり、現場での調整も必要ですが、今まで分館長が担っていた部分を、地区と関係なくチーム編成をする形を実施していますので、その辺も含めて次回に検討できればと思います。

事務局：地区で人数が集まらないので、地区ではなくて、その競技は学校にお任せして、1年生から6年生までの縦割りでチームを作ってもらって当日整列することを昨年度行いました。

事務局：実際に分館対抗でやっているのは最後のリレーとかになってしまっていますので、子どもが活躍する部分は学校にお任せしてということをするで行っています。

部会長：それを前提に協議をするということですね。

事務局：はい。それと先日行われた分館長主事会の中では、運動会と体育祭を毎年行うことはどうなのかということができました。2点目として運動会の時期ですが、今年については3連休の、真ん中に設定していますが、それについてご意見をいただいています。農繁期でもありますのでそこを考慮してもらえないかという話が出ています。

部会長：村民運動会と社会体育の関係で次回話し合いたいと思います。続いて次回日程を決めたいと思います。事務局案をお願いいたします。

事務局：次回の日程を調整させていただきたいと思います。次回は5月29日（火）19時からでどうでしょうか。

部会長：それでは次回会議を5月29日（火）19時からでお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。他に何かございますか。無いようですのでこれで会議を閉じます。長時間ありがとうございました。

次回日程 平成30年5月29日（火）

19時～ 第3、4研修室